

# 生徒の多様性を尊重する態度を育成するための男女共習による 体育の授業づくりに関する研究

スポーツ文化研究領域

5018A008-3 稲山 菜月

研究指導教員：吉永武史 准教授

## 【序章】

情報化やグローバル化、科学技術の急速な進歩に伴い、持続可能な社会の実現が求められ、それに多様性の維持・尊重が不可欠であるとされている。このような社会的背景から、2017年に改訂された中学校学習指導要領の解説保健体育編においては、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、共生の視点を重視して改善を図ることが示された。このことから、これからの体育授業では、男女共習による授業を通して、多様性を尊重して協働していくための人間性を育成していく必要があるといえる。

そこで本研究では、生徒の多様性を尊重する態度を育成するための男女共習による体育授業の学習指導プログラムを作成し、その有効性について検証することを目的とした。

## 【第1章】

第1章では、まず、多様性の尊重が求められる社会的背景を確認し、多様性が指す内容について検討した。その結果、目に見える多様性の中でも最も身近な多様性である「性別」について、理解し、尊重していく態度の育成を検討していく必要があることが示唆された。また、教科学習における性別に基づくカリキュラムについて確認したところ、身体活動を伴う体育の授業においては、制度上は男女同一カリキュラムが示されているものの、実際は実現されていない可能性があるため、更なる検討が必要であることが示唆された。

次に、男女平等が主張されるようになった社会的背景について確認した。日本においては、男女平等の実現が形式的なものに留まってしまっていることが推察された。また、2017年改訂の中学校学習指導要領の解説保健体育編において、「原則として男女共習で行う」という記載がされた理由としては、1989（平成元）年に男女区別が解消されたにも関わらず、男女共習授業の実施に当たっては多くの課題があるため、その実施が進んでこなかったということ、また、時代の変化に伴い、男女共習授業に求められているもの自体が変わってきたことの2点が考えられた。

さらに、諸外国及び日本における男女共習授業について検討した結果、男女共習授業の実現に向けた課題として、①生徒及び教師の先入観や固定観念を排除する必要があること、②男女共習によって拡大する可能性のある技能差に配慮した教材の工夫が必要であること、③意図的に生徒同士

の相互作用を促すために、生徒同士による個性の理解と尊重を促すための工夫を行うことの3点が示唆された。そして、上記の課題に基づいて、生徒の多様性を尊重する態度を育成するための男女共習による体育授業の学習指導プログラムの作成に向けた留意点について具体的な検討を試みた。1点目の性別に関する先入観の排除については、単元始めの映像の使用や、学習内容や教師行動に関する留意点などを示した。2点目の技能差に配慮した教材等の工夫については、能力に見合った教材や教具の使用、客観的に振り返るための資料や用具の使用等を示した。3点目の生徒同士による個性の理解と尊重を促すための工夫については、オリエンテーションゲームの実施や役割分担の決定、グループ同士や仲間同士での関わり合いの実施などを示し、学習指導プログラムの作成においては、これら3点に留意することとした。

## 【第2章】

第2章では、前章での考察を通して得られた、生徒の多様性を尊重する態度を育成するための男女共習授業づくりに関する留意すべき3点（①性別に関する先入観の排除、②技能差に配慮した教材等の工夫、③互いの個性を理解し尊重し合うための工夫）を取り入れた学習指導プログラム（ネット型バレーボール）を作成し、実践的検討①を行った。そして、その成果を検証し、多様性を尊重する態度を育成するための男女共習による体育の授業づくりについて検討した。

その結果、まず、性別に関する先入観を排除するための手立てについては、男女とも技能差や性別に関わらず、互いに協力して楽しむことができると感じるようになった。

次に、技能差に配慮した教材等の工夫について、今回は柔らかいソフトバレーボールを使用し、ゲームのルールを簡易化した。その結果、技能差が大きくなる可能性がある授業では教材等の工夫として有効であることが示唆された。

そして、互いの個性を理解し尊重し合うための工夫については、オリエンテーションゲームの実施によって集団による相互作用が促された。また、中間オリエンテーションを実施し、話し合う機会を設定したことで、生徒同士の関わり合いを促すことができた。特に、自分たちのグループの試合を撮影した映像の使用は話し合いを促すのに有効であることが示唆された。また、「いいねカード」を交換することに

よって、他の人の良いところを認めようとする事ができるようになったことも推察された。

また、抽出グループについて分析した結果、単元の始めは距離を空けて座り、全く話をしなかった。しかし、単元の終盤には、小さな円になって笑いながら話し合う様子が確認されたことから、一定の成果が得られたといえる。

しかしながら、男女共習授業の実施にあたり、グループによる学習活動を位置づける場合には、人間関係を十分に考慮したグループ編成を行う必要があることや、グループの課題の把握とその解決に向けた適切な練習方法の選択ができていないグループに対しては教師が積極的に関わり、修正を図る必要があることが示唆された。また、男女共習授業では身体的な接触が生じないように留意することや、学習が停滞しているグループに対する教師の声かけなどが課題として残された。

実践的検討①の結果より、生徒の人間関係や性格などを十分に考慮した上でグループ編成を行うことや、問題が発生しているグループに対しては、教師が効果的に介入できるような手立てを講じる必要があると推察された。

### 【第3章】

第3章では、第2章で得られた成果と課題をもとに修正を加えた学習指導プログラム（現代的なリズムのダンス）を作成し、実践的検討②を実施した。

まず、性別に関する先入観を排除するための手立てとして、単元始めに性別に関するイメージを払拭するための映像を視聴させた結果、ダンスは誰でも踊れるものであるという肯定的なイメージを持たせることができた。また、生徒の人間関係や性格、技能のレベルなどを考慮したグループ編成を行ったことによって、学習活動が活発に行われ、クラス全体の授業の雰囲気も明るくなった。

次に、技能差に配慮した教材等の工夫については、振り付けが簡単な素材を使用したことによって、技能的な成果を保障することができた。また、タブレット端末で自分たちの踊りを撮影したことによって、客観的に自分の踊りを見ることができ、振り付けの定着にも役立った。加えて、フォーメーション資料の活用も、現代的なリズムのダンスの創作活動においては有効であることが示唆された。

そして、互いの個性を理解し尊重し合うための工夫については、オリエンテーションゲームを実施したことによって、グループでの一体感などを感じさせることができた。また、中間オリエンテーションについても、生徒同士の関わり合いを促すなどの一定の成果がみられた。また、「いいねカード」の交換によって、生徒同士が互いの個性を認め合おう

とする姿もみられた。そして、チームティーチングによって教師の関わりが増えたことによって、生徒のオフタスク行動も減少し、学習活動が停滞していたグループにもアドバイスが提供され、学習状況の改善が図られていた。

単元を通して、クラス全体やグループのメンバー同士が仲良くなったり、コミュニケーションが積極的に図られるようになってきたことが窺えた。このような成果が見られた主な要因としては、技能レベルだけでなく、人間関係や性格を十分に考慮したグループ編成が効果的であったと推察された。

しかしながら、男女共習授業を実施するにあたっては、男女共習授業を否定的に捉えている生徒たちに対して個別にアプローチしていく必要性や、男女共習で現代的なリズムのダンスの授業を実施する際には、より一層性別に関する先入観に対する配慮が必要であることが示唆された。また、男女共習授業を実施する際には、改めて教師の声かけについて更なる検討が必要であることが示唆された。

今回の現代的なリズムのダンス単元においては、体育の授業としては一定の成果が得られたものの、男女共習授業としては十分な成果が得られず、男女共習授業で現代的なリズムのダンスの学習に取り組むことに対して否定的に捉えている生徒もいた。そのため、今後男女共習授業で現代的なリズムのダンスを実施していく際には、特に男子生徒が抵抗を示さず、かつ振り付けがより易しい素材を使用するなどの配慮が必要であることが示唆された。

### 【結章】

本研究では、生徒の多様性を尊重する態度を育成するための男女共習による体育の授業づくりを実現していくために、①性別に関する先入観の排除、②技能差に配慮した教材等の工夫、③互いの個性を理解し尊重し合うための工夫、の3点に留意し、学習指導プログラムを作成し、その有効性を検証した結果、一定の成果を得ることができた。

今後の課題として、1点目に現時点での全国規模の男女共習授業に関する実態調査、2点目に男女共習授業における教師の関わりに関する研究、3点目に他の種目と性別以外の障害や国籍を始めとする他の多様性についての実践的検討があげられる。

### 【引用・参考文献】

文部科学省(2018a) 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 総則編。東山書房：京都。

文部科学省(2018b) 中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 保健体育編。東山書房：京都。